

ルルル：

あらゆる場所の砂が集まるこの一室は大学の研究室でも博物館でもない

ニュージーランドの砂  
オーストラリアの砂  
北欧の砂  
タクラマカン砂漠の砂…

葛飾区東立石にある  
有)金子硝子工芸の  
作業場である

はい  
金子硝子工芸ですが

金子 實 社長

忙しい日常に  
癒しのひと時を  
～ひょうたん型砂時計～

有限会社 金子硝子工芸

作・公所 弘真

甲子園の砂を  
砂時計に？

ええ  
できますよ

粒状のものなら  
何でも

金子硝子工芸は現在  
国内では二社となった  
ひょうたん型砂時計  
専門メーカーの一社である

下町の住宅密集地の  
中でひょうたん型砂時計は  
製造されている

職人は  
社長と  
息子の勲氏

砂時計には円筒形と  
ひょうたん型の  
二種類があるが

特にひょうたん型は  
製造により高度な  
技術を要するという



このガラス管

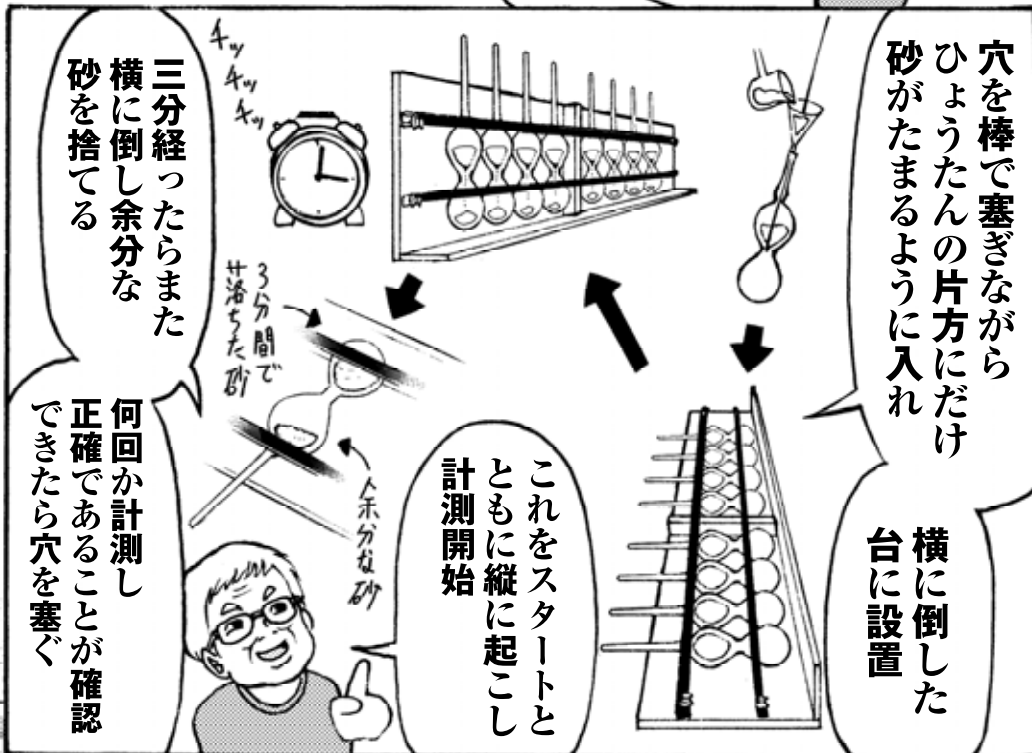
これが  
器の部分に  
なります

バーナーの火で砂時計  
一個分の長さに  
切っていきます

あぶる

切る

これが  
「管引き」という  
作業です



こうして作られる  
砂時計は一日50個  
程度

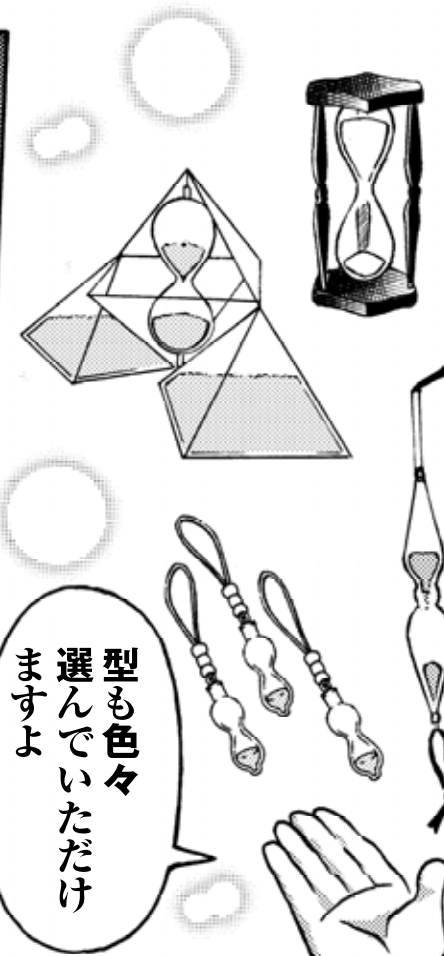
その中でも顧客による  
オーダーメイドの砂時計が  
話題を呼んでいる

15年ほど前TVの取材で  
「粒状ならなんでも砂時計に  
できますよ」って言ったら  
視聴者から問い合わせがあり

それから  
はじまったんですよ

旅先の思い出の砂や  
ペットの遺骨などの  
依頼がありますね

珍しいのだと  
南極や月の砂を  
持ってきた  
お客さんとか…



型も色々  
選んでいただけ  
ますよ

企業から展示用に  
半導体チップを砂に  
見立てた時計を頼まれた  
こともありました

穴をうんと  
大きく作り  
ましたよ

1~1.5mm程度

ダイヤモンド  
での依頼も  
ありました

そのままでは  
流れないので  
シリコンオイルに  
混ぜたり工夫を  
しましたが

後になって  
不具合が出て  
しまいました

様々なニーズに  
応えるために  
常に試行錯誤

その源流は創業者である  
先代社長にさかのぼる  
ことができる

フム

アンブル硝子工場の職人  
だった先代社長は昭和23年  
金子硝子工業所を設立

貿易会社の  
依頼で米国輸出用の  
エッグタイマーを  
手がけることになった



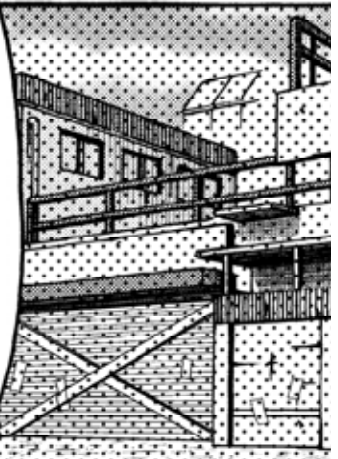
どんな砂を  
使えばいいの  
か…

夜中まで実験を  
繰り返し続けていた姿が今も  
日に焼きついていますよ

エッグタイマーの  
成功で一時期は  
下請けを三社使う  
ほどの忙しさでした

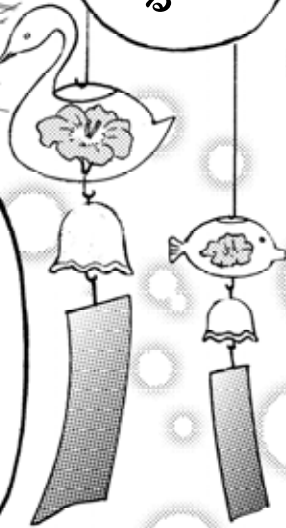


しかし昭和46年の  
ドルショック以降は経営は  
厳しくなり同業者はみんな  
やめていった…



幸い私の父には  
硝子加工の技術が  
あったため生き残る  
ことができました

スーパーの前で  
風鈴を売ったり…  
知ってる人が通る  
場所なので恥かし  
かったなあ…



でもそんなつらい思いを  
したからこそ本格的に  
硝子加工の技術を父から  
教わろうと思ったんです

不景気が新しい  
ことにチャレンジする  
きっかけになったんです

オーダーメイドも  
利益にはなりにくい  
ですが、研究する  
ことで技術の向上に  
繋がります

勉強に  
なりますよ

今なおチャレンジと  
研究の日々にある  
金子社長

砂時計の現在の  
ニーズについては  
こう語る



砂時計は時間が  
流れるのを目で見る  
ことができます

ゆっくりと流れる砂を眺め  
過去のことを思い出したり  
これまで人生を  
振り返ったり…



忙しい日常では味わえない  
癒しの時間を過ごすための  
重要な要素として見直されつつ  
あるように思います

砂時計づくりは今や  
「癒し」や「安らぎ」を与える  
仕事になったといえるんじや  
ないでしょうか

